

「徳島県キャリア教育推進指針」が策定されました。

策定の趣旨と取組

平成23年1月に、中央教育審議会において、「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」の答申が取りまとめられ、キャリア教育の新たな方向性や発達段階に応じたキャリア教育の充実方策が示されました。

県教育委員会におきましては、平成25年3月に「徳島県教育振興計画(第2期)～阿波っ子みらい教育プラン～」を策定し、その基本方針1「新たな価値を創り出し、未来へ飛躍する人を育てる教育の実現」に「キャリア教育の推進」を位置付けています。

そこで、平成25年9月に、本県学校におけるキャリア教育を推進するために、学校関係者・経済団体・有識者等で組織する「徳島県キャリア教育推進協議会」を立ち上げるとともに、本県が目指すキャリア教育の方向性と学校におけるキャリア教育を推進するための方策等を示した「徳島県キャリア教育推進指針」を策定し、学校におけるキャリア教育の推進を図ります。

本県におけるキャリア教育の課題

平成25年3月に県内小・中・高等学校において実施した「キャリア教育に関するアンケート調査」や「平成25年度全国学力・学習状況調査学校質問紙」等の結果から次のことが課題として挙げられます。

課題1
子供たちの働くことへの意欲は高いが、職業に対する理解が不十分である

課題2
子供たちに将来の夢や目標に向かって努力する気持ちや、課題に対してたくましく対応しようとする意識が低い

課題3
子供たちの地域や社会の出来事への関心や自己肯定感が低い

課題4
学校におけるキャリア教育を推進するための組織体制が整っていない

課題5
体験的な学習活動を実施するための受入先の確保が必要である

課題6
本県における新規高等学校卒業就職者の卒業後3年以内の離職率は全国水準を上回っている(全国的な傾向として、仕事に向いていない、職場での人間関係等が離職の主な原因として挙げられている。「平成21年3月新規高校卒業予定者の採用に関するアンケート調査」)

本県が目指すキャリア教育

本県においては、次のようなキャリア教育を推進します。

夢や希望に向かってチャレンジし、社会の一員として、ともに支え合い、ふるさと徳島に愛着と誇りを持つ人を育むとともに、一人一人の社会的・職業的自立に向けて、必要な基盤となる能力・態度を培うことを通して、キャリア発達を促す教育

本県におけるキャリア教育で主に身に付けたい能力・態度

本県において、主に身に付けさせたい能力・態度を、次のように示します。これらの4つの力は、中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」(答申)で示されている「基礎的・汎用的能力」に対応しています。

かかわる力 【人間関係形成・社会形成能力】
多様な他者の考え方や立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力
本県においては他者や様々な集団、社会とかかわる力を育むことにより、他者と協力・協働して今後の社会を形成していくために必要なコミュニケーション能力やチームワーク、リーダーシップ等の育成を図る

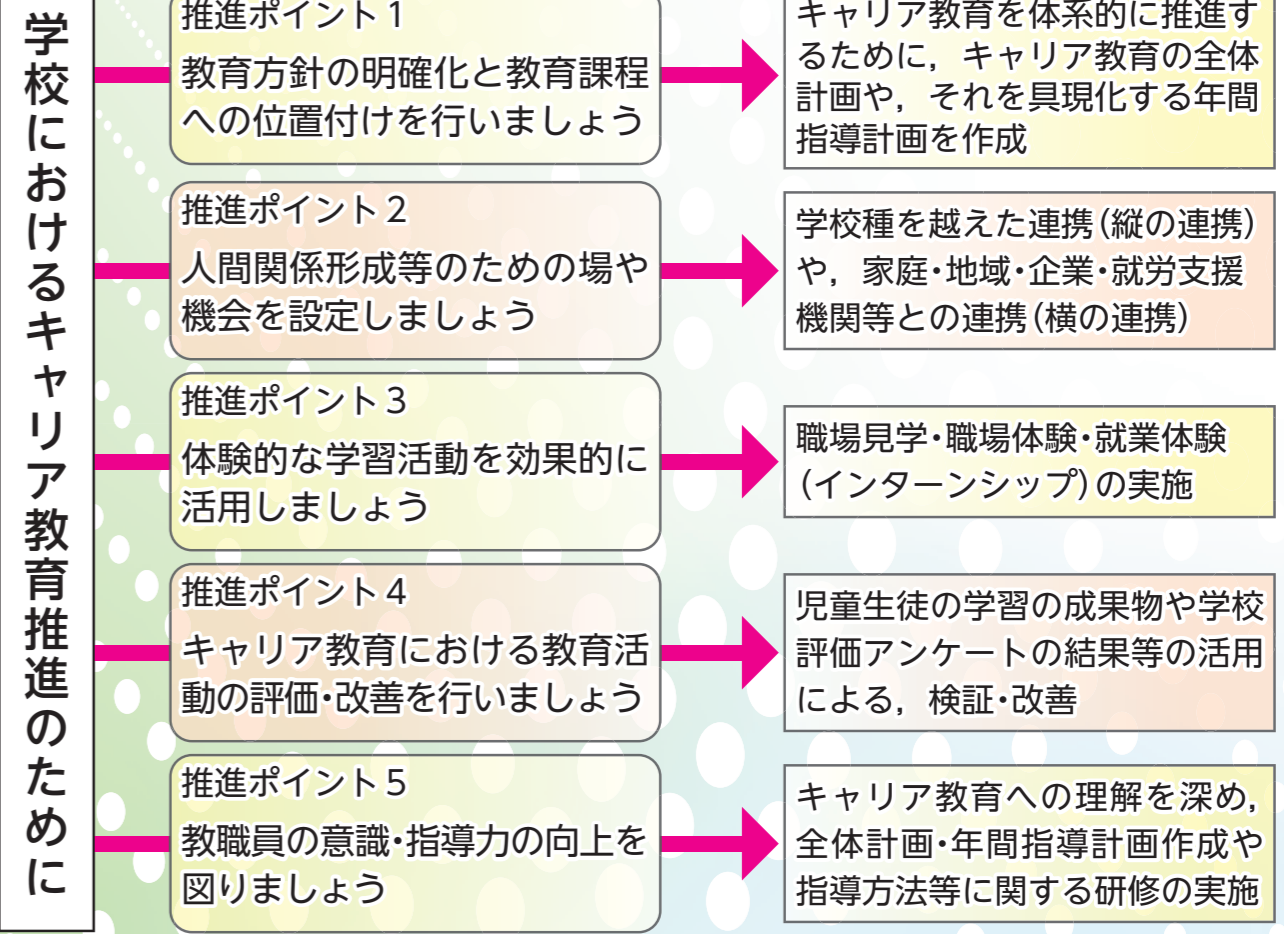
みつめる力 【自己理解・自己管理能力】
自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力
本県においては、自分自身を客観的・肯定的にみつめる力を育むことにより、キャリア形成において基盤となる自己理解能力や主体性、忍耐力等の育成を図る

すすむ力 【課題対応能力】
仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力
本県においては、物事を解決して前に進めていくすすむ力を育成することにより、様々な課題に対応し、解決していくために必要な情報活用能力や計画立案力・実行力等の育成を図る

えがく力 【キャリアプランニング能力】
「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力
本県においては、社会人・職業人として生きていくために将来の生き方をえがく力を育成することにより、学ぶことや働くことへの理解や、将来設計力等の育成を図る

キャリア教育推進方策

学校におけるキャリア教育の推進方策を次のように示します。



キャリア教育の充実に向けて

校内の体制づくり
校長のリーダーシップのもと、学校の教育活動全体を通して体系的に取り組むために、校内の推進体制として「R-PDCAサイクル」による推進を図ります。特に、学校ができることや、やるべきことなどの実現可能性を整理する上でも「R(リサーチ)」が重要です。

